

# 大牟田市立駛馬小学校

## 1 本校のESDの特徴

本校は、校区の東側に世界文化遺産「宮原坑」があり、南側に有明海に注いでいる2級河川「諏訪川」が流れている。また、近隣には多くの福祉施設があり、まちづくり協議会や公民館との地域活動も活発に行われている。このように、歴史や文化、自然環境、福祉に関することを体験的に学ぶことのできる環境に適した地域である。この学習環境を生かし、世界文化遺産（SDG s 11）、海洋教育（SDG s 14）、福祉（SDG s 3）を学習対象としたESDを展開している。また、本年度から海洋教育推進校として、環境教育の中核に海洋教育を位置づけ、更に発展させた取組を行っている。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

本校の学校教育目標「知、徳、体の調和のとれた心豊かで実践力のあるたくましい子どもの育成」のもと、ESDの実践を通して、「人格の発達や自立心、判断力などの人間性を育むとともに、他者との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、自分ができることを考え行動する児童を育成する。」という目標を設定している。

3本柱である、福祉（SDG s 3）、世界文化遺産（SDG s 11）、海洋教育（SDG s 14）を各学年の発達段階に応じて、系統的に学習できるように指導内容を精査し、広がりと深まりを持たせている。

## 3 特徴的な活動事例の紹介

### (1) 福祉教育の取組（SDG s 3）

5年生：「一人暮らし高齢者訪問」

自分たちの校区や大牟田市の高齢者の課題を捉え、地域の一員として住みやすい校区にするために、公民館長さんや民生委員さんの思いや願いを伺った。そして、自分達にできることを考えて、高齢者の笑顔と安心の輪を広げるために「一人暮らし高齢者訪問」を行った。（写真1）実際の訪問では、全校児童



(写真1) 一人暮らし高齢者訪問の様子

(写真2) ニセ電話詐欺KIDSかせ隊の活動の様子

による手紙や寄せ書きと一緒に、ニセ電話詐欺防止のチラシも配付した。警察署と連携して高齢者の「ニセ電話詐欺KIDSかせ隊（きづかせたい）」としての活動も継続して行っている。（写真2）



### (2) 海洋教育・環境教育の取組（SDG s 14）

4年生：「クリーンアップ諏訪川・有明海」

諏訪川でのカヌー体験を振り返り、水面や護岸の様子について気づいたことを出し合った。そして、諏訪川の上流、中流、下流の水質やゴミを調査し、（写真3）「諏訪川の水質を守るには何ができるか」という課題を持った。まず、中流域のゴミ拾いをして、浮くゴミと浮かぬゴミの分別を行った。諏訪川上流域の天の原小、下流域の天領小、有明海沿岸部のみなと小とオンライン合同授業でゴミの量と種類を出し合い、有明海沿岸部のゴミは、上流や中流から流れてきたゴミが含まれていることに気付いた。このことから、川をきれいにする取組は、自分達の地域だけを啓発するだけでは、限界があることに気づいた。そこ



(写真3) 諏訪川水質調査活動の様子



で、諏訪川の環境を守るために自分達にできることとして、各地域の人たちに向けてポスターを作成し、諏訪川流域の公民館に掲示してもらい、多くの人に発信することができた。



### (3) 世界文化遺産教育の取組 (SDG s 11)

6年生：「駿馬の魅力発信プロジェクト」

駿馬の魅力である、世界文化遺産「宮原坑」でのボランティアガイドをさらにレベルアップさせるために、石炭産業科学館よりGTを招いて、石炭が海底できた理由を学習し、宮原坑と有明海の新たなつながりを明らかにしていった。

かつて、宮原坑と有明海にある三池港とは鉄道で結ばれており、採掘した石炭は、有明海を利用して日本各地に運ばれたり、世界各国に輸出されたりしていた。この有明海が、運輸としてだけのつながりだけでなく、石炭は4000万年前の有明海の恵みであり、海底資源として宮原坑と深いつながりがあったことを明らかにすることができた。

そして、自分達でできることとして、宮原坑ボランティアガイドの内容に海の恵みである石炭のことを付け加え伝えることで内容の充実を図り、世界文化遺産「宮原坑」と「三池港」の魅力をさらに詳しく、多くの人に発信することができた。(写真4)



(写真4) 子どもボランティアガイドの様子

## 4 本年度の成果と課題

### ○成果

- ・一人暮らし高齢者訪問の取組を通して、地域の一員としての自覚が芽生えるとともに、これからも高齢者とのつながりを持ち、もっと自分達ができることを考えて行動しようという意欲を持つことができた。
- ・クリーンアップ諏訪川・有明海の取組を通して、川の環境を守ることは、海の環境を守ることにつながることに気付き、多くの人々と協働して環境を守っていく意欲を高め、具体的な行動につながった。
- ・駿馬の魅力発信プロジェクトの取組では、オンライン授業やGTの活用により、新たな視点での気づきを基に、宮原坑の価値を多くの人に知ってもらいたいという思いが高まり、積極的にガイドに向けての準備を行う姿が見られた。

### ○課題

- ・一人暮らし高齢者訪問の取組では、高齢者の現状や気持ちに寄り添った言葉かけや接し方について細やかな事前指導と事前準備の必要がある。
- ・クリーンアップ諏訪川・有明海の取組については、水質調査ではGTとの綿密な打合せが必要であり、ゴミ調査では、時期の選定と回数を検討する必要がある。
- ・駿馬の魅力発信プロジェクトの取組では、子どもボランティアガイドを行う日時の設定については、内容も含めて綿密な打合せが必要である。また、感染症対策を行いながらするボランティアガイドについては、次年度も実施方法の工夫が必要である。
- ・子どもたちの実践を持続させるためにも、中学校との連携や接続を見通したカリキュラムの作成が必要である。